

553.661.2(521.84) : 550.85

広島県佐伯郡湯来町地区の鉱床について

下 平 文 男

要 旨

31年度調査地域として広島・山口・島根3県境地帯がとりあげられ、そのうち筆者は湯来町を中心とする地区を調査した。

当地区においてはNE—SWに走る水内川およびその延長線上に近接した地点に鉱区または鉱区出願地があり、このうち北東寄りに位置する第1・第2湯の山鉱山およ

び旧木藤谷鉱山は高温交代鉱床に属し、磁硫鉄鉱を伴っているが、それより以西の打尾谷鉱山、本多田付近出願地、試2,740号鉱区および試2,701号鉱区等では今回の調査では磁硫鉄鉱の賦存は認められなかった。

第1・第2湯の山鉱山では鉱床規模は小さい。旧木藤谷鉱山ではなお多少探鉱の余地はあると思われるが品位が低く、とくに調査を推進するに足るものとは認め難い。

553.661.2(521.84) : 550.85

広島県上下町および周辺地区地質・鉱床

山 田 正 春

要 旨

昭和32年1月10日から11日間にわたり、広島県の受託調査として、広島県上下町およびその周辺地区に胚胎する諸鉱床の概査を行なった。なお本調査は未利用鉄資源開発調査の一環をなすものである。

本地域の地質は火成岩としては花崗岩類・石英斑岩・玢岩等、堆積岩としては古生層・ジュラ紀層・第三紀層および第四紀層等からなる。

本地域の鉱床には大別して花崗岩類に関係あるものと石英斑岩に関係あるものの2種がある。

前者には、上川鉱山の鉱床のように角閃花崗岩と古生層・石灰岩の接触部付近に小レンズ状ないし小団塊状をなしてスカルン鉱物を伴い、銅鉱を主とする接触鉱床と、尾田鉱床・高蓋鉱床のように閃雲花崗岩に近い古生層の

粘板岩・砂岩中に鉱脈をなして胚胎するもの等がある。これらはいずれも小規模で、とくに鉱脈型鉱床は少量の褐鉄鉱を伴う程度で鉱況は劣勢である。

後者には、千人原鉱山および同鉱山のやゝ南部にみられる石英斑岩と、古生層石灰岩の接触部付近に胚胎する接触鉱床があり、そのほかにも石英斑岩に関係ありと推定される劣勢な鉱脈がある。

千人原鉱山の鉱床はスカルン鉱物を伴い、銅鉱を主とするもので、その主要部分はほとんど採掘済である。千人原南部には数多くの旧坑があり、その付近には磁硫鉄鉱を主とする鉱石がみられ、この一帯には地域内ではやや優勢な鉱床を形成しているものようである。

今後はこの千人原鉱山および千人原南部一帯の石英斑岩と石灰岩の接触部について、物理探鉱等による探査を行なうことが望ましい。

553.661.2(521.85) : 550.85

山口県蓮華山周辺地区の磁硫鉄鉱鉱床

谷 山 徹 雄 東 元 定 雄

要 旨

山口県玖珂郡蓮華山周辺地区には、古生代の玖珂層群

と広島型花崗岩が分布しており、前者中には層状マンガン鉱床と磁硫鉄鉱鉱床とが存在する。

磁硫鉄鉍鉍床は古生層中のレンズ状石灰岩を交代して生成した高温交代鉍床である。第二周防鉍山明見谷鉍床は、鉍石の品位高く、かなりの鉍量が予想され、今後適切な探鉱が望まれる。蓮華山鉍床は、試錐によつて、鉍

床の規模を確認し、開発準備中である。

蓮華鉍山では、層状マンガン鉍床に伴つてかなりの磁硫鉄鉍鉍石がみいだされる。その品位は低く、開発の対象とならない。

553.661.2(522.7) : 550.822

宮崎県黒葛原鉍山磁硫鉄鉍鉍床

太田 一 深沢 邦武 大久保 太治 時津 孝人

要 旨

昭和31年8月27日から10月10日にかけて、宮崎県黒葛原鉍山において磁硫鉄鉍鉍床調査のため試錐を実施した。

黒葛原鉍山については昭和29年度に実施した物理探鉍調査^{註1)}および昭和30年度に実施した地質調査^{註2)}があり、また本年度の初めに鉍山で実施した物理探鉍調

査もある。それらの結果に基づき試錐調査を実施したが孔内状況が悪かつたため探鉍の直接の目的は達せられなかつた。しかし旧坑と推定されるものに当つて鉍床の存在が予想できた。なお調査は太田・深沢および大久保が行ない、最後の取りまとめは時津が行なつた。

註1) 未利用鉄資源, 第1輯

註2) " 第2輯

553.311 : 551.782.2(521.24) : 550.85

群馬県利根郡新治村雨見山付近の砂鉄鉍鉍床

上野 三義 井上 秀雄

要 旨

本調査は群馬県利根郡新治村内の砂鉄層に関する概査であつて、未利用鉄資源開発調査の一環として実施された。

本地域の砂鉄層はおゝむね雨見山の北斜面一帯および須川流域の下宿・大影とに分布し、盆状地内に堆積した凝灰岩・凝灰質砂岩・砂岩の累層中に発達する。

各砂鉄層は主として黒色緻密堅硬の高品位鉍(Fe 45~55%), 褐黒色中品位鉍(Fe 30~40%), および暗緑色の

貧鉍(Fe 10~20%) からなる。

鉍石鉍物は磁鉄鉍およびチタン鉄鉍を主とし、一般にFe 40%以上の原鉍にはTiO₂ 9~12%が含まれる。

脈石鉍物として石英・斜長石・輝石・黒雲母・楊石などが認められる。

鉍石のあるものには褐簾石とジルコンが比較的多量に含まれていることがある。

品位Fe 30%以上を見込まれる各砂鉄層の鉍量は5,000~14,000tであり、地域全体としても合計40,000tに達しない。